第５学年　外国語科学習指導案

令和３年９月９日（木）第２校時

授業者　教諭　丸山　恵理

ＡＬＴ　Jenny Coralie

１　単元名　「She can sing well.」(Blue Sky5 Unit4)

２　単元の目標

・自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。

【知識・技能】

・自分や第三者について、できることやできないことを、目的に応じて必要な情報を聞き取ったり、相手に伝わるように話したり、やりとりしたりする。【思考・判断・表現】

・習ったことを積極的に用いて、相手に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。【主体的に学習に取り組む態度】

３　指導計画（全７時間）

　　１時　　できること・できないことを表す表現を聞いたり言ったりする。

　　２時　　できること・できないことを表す表現を聞いたり言ったりして慣れ親しむ。

　　３時　　できること・できないことを尋ねたり、答えたりする。

４時　　相手の答えを予想して、できるかどうか尋ねたり、答えたりする。

　　５時　　第三者について、できること・できないことを聞く。

６時　　南小の先生方のできること・できないことをインタビューし、クイズの準備をする。

７時　　インタビュー結果をもとに、南小の先生方のできることをクイズ形式で紹介する。

４　本時の指導　（本時　４／７）

（１） ねらい

　相手の答えを予想して、できるかどうか尋ねたり、答えたりする。

（２）研究主題にせまるための手だて

　　研究主題：　Let’s listen and think　～子どもが話したくなる外国語教育の工夫～

Small talkの設定

　　導入のSmall talkでは、本時の課題に向かうために必要となる文や既習の表現が入った会話を児童に聞かせる。最初、担任とALTでクイズのやりとりをする様子を見せるが、途中児童を巻き込みながら行うことで、より主体的に聞こうとする姿を期待する。また、次のActivityのデモンストレーションの要素も含んだ形にすることで、見通しをもって活動できると考える。

主体的にやり取りできる言語活動の設定

　　児童の「話したい」「聞きたい」を引き出すためには、児童一人一人が自分の伝えたいことをもつことのできる「目的・場面・状況」の設定が必要だと考える。本単元では、単元のゴールを、先生方へのインタビューをもとに作成した「Who is this？クイズで南小の先生、新発見！」とし、児童にとって身近な存在である先生方の意外な一面を探っていく活動を設定した。そこで、単元の導入において、東京オリンピックで活躍した選手の紹介をクイズ形式で示すことで、児童に単元の見通しと「自分たちもクイズを作りたい」という気持ちをもたせる。

本時では、動物やキャラクターを使った「Yes/Noクイズ」を設定した。聞き手は、相手の選んだカードが何の動物（または、キャラクター）かを予想した上で質問をする。何と聞けば答えにたどり着くか考えながら質問することで、聞く必要感を高められるようにしたい。また、単元のゴールで必要なフレーズもここで学べるようにする。全体で「Yes/Noクイズ」を行った後、ペアでも行う。「Can you ~?」「Yes, I can./ No, I can’t.」を繰り返し練習することで、より自信をもって表現できるようにしていく。

（３）展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | ○ 学習活動　・ 予想される児童の反応 | ○教師の指導・支援　◎ 評価 |
| 3分 | 【Greeting】  ○ALT・HRTとあいさつをする。  C: Hello! Ms. Coralie.  T: Hello everyone!  How are you?  C: I’m good/happy/fine.  C1: Me too! | ○外国語の学習に入っていく雰囲気づくりをするために、ALTを中心に、今日の調子や天気、曜日、時間などを確認する。 |
| 5分 | 【Phonics】  ○「Q・q」の名前読み、書き方、 qから始まる単語の読み方を知る。 | ○小文字の形が地下１階つきのアルファベットであるので、第４線まで伸びる文字の位置をしっかり認識できるように指導する。  ◎「Q・q」の名前読みや音読みを発音し、４線上に正しく書き写している。  （行動観察・ワークシート） |
| 7分  25分 | 【Small talk】  HRT：Look at these pictures.  It’s quiz time! What am I?  Can you guess?  ALT：OK. Umm…  Can you run fast?  HRT：No, I can’t.  ALT：You can’t run fast.  　　　Can you swim?  HRT：Yes, I can. I can swim very well.  ALT：Oh! Very well? Umm…  Do you have any questions?  C：Can you fly?  ALT：Can you guess?  Let’s say the answer together.  C：Penguin!  HRT：That’s right!  ・“swim”って聞こえた。泳げる動物だな。  ・他にも英語でクイズをやりたいな。  ○本時の課題を確認する。  【Practice】  ○ 動作のFlashcardsを用いて「Can you～？」「Yes, I can./ No, I can’t.」の表現を復習する。  【Activity】  ○動物、キャラクターなどを使って、「Yes/Noクイズ」をする。  動物、キャラクターのカードから1枚を選択する。  C1：Question please!  C2：Can you ~?  C1：Yes, I can.　I can~.  C2：Can you ~?  C1：No, I can’t .　I can’t~.  C1：（答えが違う場合）Nice try! / Sorry!  （正解が出たら）That’s right!  ・・  :  ・「Can you jump?」と聞いてみよう。“Yes”だったら、カンガルーかな？  ・質問されたことを聞き取れるかな。  ・何と聞かれているのか、分からなくて難しいな。「One more time, please!」でもう一度言ってもらおう。  ・ジェスチャーをつけると、canと can’tの違いが伝えやすいぞ。  ・正解の時には、違う言い方でジェスチャーもつけてみようかな。 | ○動物の絵カードを掲示する。  鳥、カンガルー、金魚、チーター、ペンギン、コアラ、カエル、犬、ウサギ、サル  ○最初はHRT・ALTでやりとりをし、途中児童  も巻き込みながら進めていくことで、主体的に聞くことができるようにする。また、Activityにつながるようにしていく。  ○内容を推測しやすいように、ジェスチャーを付けながら話をする。  ○クイズの答えを確認した後、児童数人にも、「Can you~?」と尋ねたり、答えさせたりしながら、前時の学習内容を確認する。  ＜Today’s goal＞  「Yes/Noクイズ」で、できるかどうか、尋ねたり答えたりしよう！  ○１回目は、ALT→HRT→児童の順に手拍子のリズムに合わせて練習する。（“ぐるぐる”）  ○２回目、３回目は先生役を児童にもやってもらうなど、パターンを変えてテンポよく練習する。  ○ “can”を使ってクイズがしやすく、誰もが知  っている動物、キャラクターを選択する。  ○デモンストレーションで例示を示す。その際、３ポイントを意識できるように、smile, eye-contact, clear voiceを示す。Can/can’tが聞き取りづらいので、ジェスチャーをつける表現を補う。そして、ジェスチャーやうなずきを入れると相手に伝わりやすく、よりよいやり取りになることを確認する。  ○質問する際の手助けになるように、動作の絵カードを掲示しておく。  ○　　　の表現だけでなく,“Great!”“Excellent!”“Wonderful!”等を自然に使えるように促し、積極的に表現している児童を賞賛する。  ○聞き取れなかった場合は、「One more time, please!」と言えるようにする。  ○より自信をもって表現できるようにするために、ペアでも「Yes/Noクイズ」をする。動物・キャラクターカードを一人一枚配り、「Can you ~?」「Yes, I can. / No, I can’t.」のやり取りを行い、カードを交換しながら繰り返す。  ◎相手の答えを予想し、できるかどうか尋ねたり答えたりしている。  （行動観察） |
| 5分 | 【Feedback】【Greeting】  ○授業の振り返りを発表する。  ・聞かれたことに答えることができてうれしかった。  ・聞きたいことを“ Can you ~?”と聞くことができた。  ・別のクイズも出し合ってみたい。  ○終わりのあいさつをする。  C：Thank you for the lesson.  ALT：See you next time!  C：See you, next time!  See | ○感想や気付き等を発表させ、称賛し合う。  ○今日の授業の評価を伝える。（HRT・ALT） |